

つかいぼう通信第 85 号

編集／特定非営利活動法人障害者自立センターつかいぼう

〒502-0843 岐阜市早田東町8丁目4-1 パセール長良 103 号

TEL 058-215-7374 Fax 058-296-5343

e-mail tsukkaibo@ip.mirai.ne.jp <http://tsukkaibo.com>

発行／2019 年 7 月 12 日

「ソーネおおぞね」に行っ

去る 5 月 24 日、ビーカンパニーのお誘いで名古屋にあるわっぱの会の運営する「ソーネおおぞね」の見学会に参加させていただきました。2018 年 3 月 31 日にオープンした大曾根住宅 1F を改築してできた複合施設です。

建物の内装や外装とも、木材を主にしたとても素敵な建物で 2018 年度の「愛知まちなみ建築賞」と「愛知賞優秀賞」を受賞していました。

当日は到着してまず昼食でした。前もって注文しておいたソーネカフェの食事を頂き、斎藤懸三さんからソーネおおぞねについてのお話を伺った後、施設見学、自由行動でソーネショップではおなじみのわっぱんを買ったり、県内各地から集められたこだわりの品を見て歩きました。施設は五つのゾーンに分かれています。

ソーネホール…各種講座や会合など地域のイベントに使えるレンタルスペース。150 人まで収容可能でお安い料金設定です。大衆演劇もやっています。

ソーネカフェ…モーニングから晩御飯まで、愛知県産の食材を使ったヘルシーメニューゆったりとしたスペースで小さなお子さんと来ても安心です。

ソーネショップ…もちろん、わっぱんのパンと、愛知の食をメインに、こだわりの物から一般的な物まで販売。私はカバンがボロボロになっていたののでここで新しいカバンを買いました。良かったです。カバンの内ポケットに、手入れの仕方などが書かれて小さなカードが入っていて、MarukiCraft 製造元を調べたら岡崎の B 型の就労支援施設のようでした。まだほかにもいろんなことを手掛けて見えて、すごいなあ、がんばれ!…と思いつつ、私たちの製品も、こうやって調べたりしてくれる人がいるかもしれないなあ…想像して自然と笑みがこぼれました。

ソーネしげん…分別して持って来て頂いた資源を買い取ります。店内のカフェのドリンクやフードに使えるポイントに交換ができ、お得感満載です。現在 1800 人の方のご利用があり、月 100 人程度増えているそうです。私たちが見学しているときも新聞紙と空き缶 2～3 個ほど持って来られた高齢の方がいました。気楽に来れるステーションといった感じで、奥のほうでは障害を持った人が何人か働いて見えたのが自然な感じでした。

夏までにはリサイクルセンターができるそうです

ソーネそうだん…「地域の駆け込み寺」的で、小さな困りごとから専門家が寄り添って解決します。

赤ちゃんからお年寄りまでが集まり、つながっていける場「ごちゃまぜの交流の場」を目指して生まれました。お金を儲けるだけでなく、つながり広がっていく場を作っていきます。仕事が増えれば、働く場も働ける人も増やしていきます。自治会は初め不安そうでしたが今はよい関係が築けつつあります。

障害を持つ人、そうでない人もみんなが「共に働き、共に生活する場をつくり、共に生きる社会を実現しよう」と 1971 年から様々な活動に取り組んできたわっぱの会ですが、「ソーネおおぞね」は、一つの集大成というか大きな実験なのかと思いました。これから向かうべき方向を考えるのにとっても勉強になり、行けてよかったです。具体的にどうするのか、果たしてできるのか、不安も大きいですが、勇気と感動をもらいました。

障害者が入院中の医療機関からの外出・外泊する場合には 「同行援護・行動援護・重度訪問介護」 が利用できるようになりました。

平成 28 年 6 月に入院中の外出や外泊時に、重度訪問介護や同行援護、行動援護が利用可能という国の通知が出ました。

旧国立療養所があり、多くの筋ジスや重心を中心とした障害者や、一般病院に長期入院している頸椎損傷等の障害者が対象となります。

つかいぼうでは、相談支援事業を行っていますが、岐阜にも旧国立療養所があり、そこに入院されている方でつかいぼうの相談支援を利用されている方が何名かみえます。

相談支援専門員をやっている私たちは、この制度ができることを知った時から、この病院の方々にぜひこの制度を利用してほしいと考えていました。

病院にも、療育のプログラムの中に院内・院外の外出の機会があったが、回数はとても少なく、自分で外出しようとするれば、付き添いを探すことや費用が高額になることなどの問題があり、外出は容易には出来無い状態でした。

つかいぼうと、この病院のかかわりや自立支援の歴史は長く、私たちの中での思いは深く(と勝手に思っていますが…)、この制度を一先ず、計画相談でかかわる障害者や職員に伝えていきました。

一回でも多く外に出て、楽しく過ごしてほしい、病院の関係者だけでなく外部の人の出入りを作り、もっと病院の風通しを良くしたい、この病院の事を、ここにたくさん障害者が生きている事を、そしてここの暮らしを一人でも多くの人に知ってほしい、そのことが自立の一助、共生社会の一步へつながったら…と思いました。

その中で、外出する人は少しずつ増えていきました。特に重度心身障害児者の方の利用も増えました。定期的に安定して外出できるようになり、有料のヘルパーに支払う分をタクシー代に回し、遠出ができるようになり、外出回数が増えて、ストレスが少なくなった人もいます。自立の準備が少し容易になった等…モニタリングで喜ばしい話が聞けたりしました。

モニタリングついでに、外出の様子を見に行く時もあります。そんな時に限って天気が悪く、外に出られず、1病院内や病棟内の廊下をヘルパーに車いすを押されて回っている人を目にします。また、感染症が流行っているときは、利用すらキャンセルになることもあります。

ヘルパーも利用者も、互いに慣れてなくて固い表情の人たち、あるいは無表情に機械的に車いすを押しているように見えるヘルパーも見受けられました。あれから何か月か経ち、少しは何かが変わっただろうかと気になっています。

しかし、普段から病院は、人手が足りなく寝かされがちで、車いすに移乗することすら限定されるような状況の中(病棟にもよるのだが…)で、回数も関係なくやってもらえていましたが、ここの所、外出回数に制限が設けられ、月1回となったところもあります。これは、ヘルパーを派遣する居宅介護支援事業所側の事情もあり、利用希望が受けきれなくなっている背景もあります。

しかし、ふっと思えます。これくらいの事が、病院の日常の業務としてできないのだろうか。散歩程度の外出や近所への買い物、入院生活で少しの豊かさの提供はできないのだろうかと思うのは間違いだろうか?今の病院が怠けているという意味では絶対にありません。

タクシーで遠出する人たちもいます。行先の多くは、市内やその周辺にある大型ショッピングセンターのようです。バリアフリーで食事もできるし、トイレの心配も天候の心配もありません。目を引くものが溢れていて、何時間でもいられそうです。

いつも、次の外出を楽しみにしている人がいると聞きます。一人ひとりの意欲や関心が、どんどん伸ばせて行ける状況があったらなあ、つくづく思います。

外出の目的は「気晴らし、ストレスの発散」という人が多いかと思います。健常者・障害者、入院している・していないにかかわらず共通なのだと思います。入院生活であれば、当然過ぎる位当然でしょう。今の生活の中で一つの楽しみになっていたり、役に立っていればとてもうれしいと思います。もっと個別性があり、いつか一人一人の可能性や地域とのつながりを、生み出せるものになったらいいなあと思います。

地域と断ち切れ、閉ざされた環境にいて、外出には時間、回数、場所に制約がある中、どうあればいいのかと勝手に考えてします。この状況が、少しずつでも共通の問題意識として広がっていく事を願っています。

最後に一つ、この通知は大歓迎に間違いは無いのですが、医療機関ではない入所施設は対象になっていません。「入所施設は外出も含めて施設が24時間担当する」という決まりがあるのが原因のようですが、決して自由に外出・外泊ができていないもので、是非検討してほしいと思います。しかしその前に、施設と病院の社会的入院は無くすべきだと強く思います。

やっと久々に通信ができました。総会も6月内に終わりました。一回でも多く発行し、つかいぼうの活動をお伝えすること、一緒に考える場づくりをしていきたいと思えます。会費の納入まだの方はお願いします。一緒に活動しよう支えてやろうと思われる方は、ご入会をお願いします。

正会員 一口1000円（できれば複数口） ※一緒に運営、議決権があります

賛助会員 一口1000円（できれば複数口）

会員の方には「つかいぼう通信」をお届けする他、行事や催し物のご案内を致します。

■お手続き方法

所定の会費をお納めください。なお会費は事務局にお持ちいただくか、下記口座への振り込みをお願いします。領収書と入会申込書を怒らせていただきます。

【振込先】十六銀行 岐阜中央支店 普通No. 1382822

特定非営利活動法人 障害者自立センターつかいぼう

理事長 吉田朱美